

令和6年度第3回滝沢市総合計画審議会 会議録

(令和7年3月12日(水) 15時00分～17時00分)

(滝沢市市役所4階中会議室)

(進行) 事務局

ただいまから令和6年度第3回滝沢市総合計画審議会を開会いたします。

本日の出席委員は21人中17人であり、過半数を満たしております。よって滝沢市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により会議が成立することを御報告いたします。

それでは早速次第に沿って進めさせていただきます。

開会にあたり、滝沢市長武田哲より御挨拶を申し上げます。

(挨拶) 市長

本日は年度末で公私ともにお忙しいところ、会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の第3回滝沢市総合計画審議会の議事につきましては、議事次第に記載のとおり、「次期地方創生総合戦略の策定について」及び「令和6年度たきざわ幸福実感アンケートの結果について」の2件でございます。

まず1つ目の議事、「次期地方創生総合戦略の策定について」につきましては、現行の創生総合戦略の計画期間が今年度末までとなっていることから、前回の総合計画審議会において、来年度からの次期創生総合戦略の策定方針及びその基礎となる人口ビジョンについてお示しさせていただいたところであります。

今回はその際に頂いた御意見や、審議会後に実施したパブリックコメントを踏まえて策定いたしました次期地方創生総合戦略の素案を皆様にお示しさせていただきますのでこちらについて皆様から貴重な御意見を頂戴できればと思っております。

そして2つ目の議事、「令和6年度たきざわ幸福実感アンケートの結果について」につきましては、市民の皆様が普段の生活でどのようなことを感じ、考えているかを測るため、平成15年度から毎年度実施しているアンケートの今年度の実施結果でございます。

このアンケートは、滝沢市内に住所を有する満18歳以上の方を対象に、性別、世代、地域を考慮し、無作為抽出された3,200人を対象に、実施したものでございます。

令和6年度の有効回答件数は1,037件で回答率が32.4%となっております。

このアンケートのいくつかの設問は総合計画の評価指標ともなっておりますことから、こちらにつきましても、皆様から御意見を頂戴できればと思っております。

それでは、限られた時間ではございますが、審議のほどどうぞよろしくお願いいたします。

(進行) 事務局

本日参加されております委員の皆様の御紹介につきましては、出席者名簿での御紹介とさせていただきますことを御容赦願いたいと思います。

また、市側出席者につきましても、武田市長、岡田副市長、太田教育長、以下名簿の通

りの出席となっております。

それでは改めまして本日の議事等について説明させていただきます。

先ほど市長からもありましたとおり、議事1「次期地方創生総合戦略の策定について」議事2「令和6年度たきざわ幸福実感アンケートの結果について」と順次進めさせていただきます。

ここからの進行につきましては、総合計画審議会会長であります丸山会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（進行）会長

それでは本日もよろしくお願いします。それでは議事に入ります。

1つ目の議事「次期地方創生総合戦略の策定について」事務局から説明をお願いします

（説明）事務局

それでは1つ目の議事「次期地方創生総合戦略の策定について」御説明申し上げたいと思います。

前回の12月25日の審議会において、総合戦略の趣旨、現行戦略の概要、策定方針、骨子案等について御説明をいたしました。

前回の御説明させていただきました内容は本日の議事事項と関連いたしますので、振り返りとして再度、御説明を申し上げたいと思います。

前回、総合戦略の策定方針として、「現行戦略を基本に、国や県の上位方針及び人口ビジョン改訂内容を踏まえ策定すること」、「計画期間は令和7年度から令和13年度までの7年間とすること」、「計画の位置付けは総合計画の分野別計画とすること」、「総合計画の施策のうち人口減少対策関連施策を組み直したものとすること」を御説明申し上げました。

また、内容については国の例示に従い、「地域ビジョン」、「目標値の設定」、「基本方針の明示」、「具体施策と指標及び目標値設定」からなる総合戦略を策定することとして御説明したところであります。

さらに、前回は、総合戦略の基礎となる人口ビジョンの改訂案の御説明もあわせて行ったところであります。人口ビジョンでは、国立社会保障人口問題研究所の推計値を踏まえた人口推計をもとに、様々な角度から人口推移の分析を行ったうえで、今後、取り組むべき4つの施策の方向性と、目標とする人口水準を設定したところであります。

その人口ビジョンを基礎として、今回の総合戦略を策定しているということになっております。

それでは、資料1「第3期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」の内容について御説明いたします。

まず2ページ目の「初めに」の部分には総合戦略の趣旨や、国の方針に倣って本市としても人口減少対策を進めるために総合戦略を策定したいということを記載しています。

続いて3ページ目については総合戦略は総合計画の分野別計画に位置付けること及びそ

の計画期間は、総合計画に合わせ令和7年度から令和13年度までの7年間とすることを記載しています。

4 ページ目の人口ビジョンの部分では、前回御説明した内容を改めて記載しており、本市における人口動向の分析結果として、65歳以上の高齢者を支える生産年齢人口が大幅に減少する見込みであること、転出超過数の上位には仙台市や北上市が多いという傾向があること、特に10代後半から20代前半の転出者数が非常に多い状況であることが示されています。

将来人口推計については、令和2年の5万5,579人をピークに減少すると見込まれています。本市では自然減・社会減が同程度の影響を及ぼしており、アンケート結果によると、地元に住みたいと考える学生は多い一方で、家庭での理想とする子供の数と現状の子どもの数との間に差があることが示されています。

これらを踏まえ、自然減対策と社会減対策の両面で取り組む必要がある、と総括し、具体的な方向性として、5 ページ目に4点掲げています。

1点目は「自分らしい子育てが実現できる環境づくり」、2点目は「定住・転入を促す環境づくり」、3点目は「市への愛着の醸成と若者が活躍できる環境づくり」、4点目は「高齢者が生きがいを持ちいきいきと暮らす環境づくり」となります。

これらに基づく施策を展開することで5 ページ目下のグラフにおける国の推計値である赤い線を上回る青い線の人口、具体的には2070年には国の推計値である3万2,000人より1万1,000人以上多い、4万3,000人を目指すこととしています。さらにその後も少なくとも4万人を維持する環境を目指し取組を進めてまいりたいと考えています。ここまでが前回説明させていただいた内容となります。

これら前回お示しした人口ビジョンの内容等を踏まえ、6 ページ目は総合戦略のビジョンを示しています。市の自治基本条例が掲げる将来像「誰もが幸福を実感できる活力に満ちた地域」については総合計画のビジョンにもなっておりますが、総合戦略についてもそれらと整合させるため同じビジョンを掲げています。

6 ページ目下部から7 ページ目にかけては取組の基本的方向性4点について記載しています。こちらは人口減対策・社会減対策として示した4つの対策をそのまま基本的方向性として記載しています。

7 ページ目中段以降では、指標および目標値について記載しています。人口の維持を目標とし5万5,500人を維持すること、市で幸せに暮らしている人の割合を増やすこと、活力に満ちた地域だと感じる人を増やすことを目標として記載しており、これらの目標は総合計画の指標と整合性を持たせています。

8 ページ目は取組の姿勢について記載しています。国および県の上位方針との連携、デジタル技術を活用した施策展開、PDCAサイクルの確立の3点を取組姿勢として掲げています。

施策の体系については、基本目標ごとに総合計画の施策を再編して関連付けています。

具体的には、基本目標1「自分らしい子育てが実現できる環境づくり」については、健康こども部子育て課が所管する施策などを関連付けています。基本目標2「定住・転入を

促す環境づくり」では、企業振興課、観光物産課、農林課、都市政策課が所管する施策を関連付けています。基本目標3「市への愛着の醸成と若者が活躍できる環境づくり」では、地域づくり推進課、若者活躍推進室、たきざわ魅力発信室が所管する施策を関連付けています。基本目標4「高齢者が生きがいを持ちいきいきと暮らす環境づくり」については、健康づくり課、福祉課、地域包括支援センター、防災防犯課が所管する施策を関連付けています。これらの施策は、総合計画に基づきつつ、人口減少対策の基本目標に沿った形で再編しています。

また、各基本目標に関連したKPI（重要業績指標）および目標値も設定しております。

「自分らしい子育てが実現できる環境づくり」では、「合計特殊出生率」及び「子どもが大切に育てられていると感じている人の割合」の向上。「定住、転入を促す環境づくり」では「市民一人当たり課税所得額」及び「働く場があると感じている人の割合」の向上。「市への愛着の醸成と若者が活躍できる環境づくり」では、「転入出者数の均衡」及び「人々が集まり活動できる場があると感じている人の割合」の向上。「高齢者が生きがいを持ちいきいきと暮らす環境づくり」では、「心身ともに元気に暮らせていると感じている人の割合」及び「老後が不安なく暮らせると感じている人の割合」の向上を目標とし施策を推進します。

なお、総合計画の施策を関連付ける形で整理していることから、その推進事業は関連する各課の所管する事務事業となっています。

以上が資料1「第3期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」の説明となります。

以上が、総合戦略素案の内容となりますが、ここで若干補足説明をさせていただきたいと思います。前回、総合戦略骨子案・人口ビジョン改訂案を御説明させていただきましたときに、4つほど御意見をいただいております。

1点目は、「高齢者もいきいきとして、子育てにおいても活躍できるという視点を加えては」という御意見でありました。その時にも説明いたしましたが、国が示す「基本的な考え」においても、「高齢者も含め全ての世代が暮らしやすい環境を作る」ということが明記され、本市の総合戦略でも新たに、「高齢者が生きがいを持ちいきいきを暮らす環境づくり」という基本方針を新たに加えたところであります。具体的施策としても、健康づくり課、高齢者福祉課、地域包括支援センターが所管する事務事業も国の交付金等の活用が可能となるよう戦略を策定したところであります。

2点目は、若者が多いという強みを生かし、総合戦略に基づいた取組を継続願いたいという御意見。

3点目は、人口ビジョンの分析のとおり、人口減少は地域経済への影響が甚大であり、目標人口水準を達成できるよう様々な団体が協力し取組を進めていただきたいという御意見でした。

人口が減少する年代の分析からも明らかなように、進学・就職時の居住先の選択で選ばれる自治体になることは非常に重要であると捉えております。基本目標2で掲げておりま

すとおり、本市の強みを生かした取組により多様な雇用の場の確保、産業振興、生活利便性の向上を図ってまいりたいと考えております。

4点目は、今滝沢市に住んで仕事をしている若い方が、なぜ滝沢市に住んでいるのかなどの意見を伺い分析も必要ではという御意見。

今回の総合戦略にはその分析が直接含まれているわけではありませんが、現在市で行っております「自分ごと化会議」での議論では、無作為抽出で協力の意思を示していただいた方に御参加いただいておりますので、これまで市政と関連が少なかった若い世代の方も入って様々な意見をいただいております。また、3月1日に行いましたタウンミーティングでも若い方から高齢の方まで参加いただきました。そのほか、首都圏で開催した滝沢市にゆかりのある若い方との交流会など、様々な機会を捉えながら、滝沢市の魅力、なぜ、滝沢に居所を構えたのか、逆に、転出したのかなどといったことを伺い、市民の声を集積していきたいと考えております。

ほかに、前回、政策方針評価の議題において、具体的な事務事業の内容を示した資料を掲示している旨案内してはとの御意見も伺いました。

今回の総合戦略では、施策に関連する事務事業として、「関係各課が所管する事務事業」を記載させていただいており、具体的には、令和7年度で申し上げますと、「令和7年度実行計画」に記載された各課所管事業となります。

令和7年度実行計画は、全324事業からなり、冊子では200ページほどの内容となりますので、こちらでは配付はいたしません。市ホームページに掲載してありますので、後ほど、その内容を御覧いただければと思います。

最後に国との関係について、御説明申し上げます。国では、前回の総合計画審議会の前日である令和6年12月24日に「新しい地方経済・生活環境創生本部」から新たな地方創生の基本的な考え方が示されました。それらを踏まえ、今回の総合戦略素案も策定したところでありますが、実は国から、「令和7年度当初から国の交付金や特例制度の活用を希望する場合、事前に協議するように」との通知が今年1月にあり、もちろん、正式決定前のあくまで素案である旨を国に伝えた上で、事前協議を行いました。

その結果、この総合戦略の内容であれば、国の交付金や特例措置の活用が可能であるということで、現在協議が進んでおりますことも申し添えさせていただきます。

以上長くなりましたが、次期総合戦略の策定についての説明を終わります。

（進行）会長

はい、ありがとうございました。

それではただいまの説明について御質問、御意見のある委員の方は御発言をお願いします。

（意見・質問）委員

今日いただいたアンケートの報告書に関して質問です。このアンケートの結果に基づいて進める実際の既存事業や新規事業の具体的な内容は、ホームページを見れば私たちが理

解できるようになっていますか。

（進行）会長

御質問ですね。どうぞ、お願いします。

（回答）事務局

それぞれの課で具体的にどんな事務や事業を行うのかについては「実行計画書」という形でまとめておりまして、そこに各課の取り組む事業が載っており、全部で324事業が掲載されております。

そこには今年度、つまり令和7年度から新たに始める新規事業も含まれていますので、この「実行計画書」を見ていただければ、具体的な各事業の内容を理解していただけるのではないかと思います。この計画書はホームページでも公開していますので、御確認いただければと思います。

（意見・質問）委員

はい、ありがとうございます。その計画書には例えば、私に関係がある医療・介護事業に関する内容について、こういった取組を行うのかの説明が記載されているという理解でよろしいでしょうか。

また、今回、総論として御報告をいただきましたが、この総論を踏まえ、次のステップで、各新規事業について「このようなことを計画しています」といった説明を別途していただける機会があるということでしょうか。この2点を確認させていただきたいと思います。

（進行）会長

はい、お願いします。

（回答）事務局

まず1点目の事項について御説明いたします。本日配付いたしました「令和6年度たきざわ幸福実感アンケート報告書」につきましては、具体的な事業をまとめたものではなく、具体的な事業の指標として活用することを目的とし、長年にわたり実施してきたアンケート結果を取りまとめたものでございます。この内容については、後ほど改めて御説明いたします。

また、具体的な事務事業内容に関しましては、先ほど福井より説明がありましたとおり、「実行計画書」というものに記載されております。ただし、この「実行計画書」は非常に分量が多いため、資料としての配付は行っておらず、市のホームページに掲載しており、どなたでも閲覧可能な状態となっております。

2点目については総合計画審議会において個別の事業の詳細説明を行う予定はございません。ただし、必要に応じて関係する団体の皆様に対し、担当部署から関連事業について

御説明する機会を設けることも可能ですので、その際は御相談いただければと存じます。

（進行）会長

はい、よろしいでしょうか。

それではどうぞ、他の点について御質問あるいは御意見をお願いします。

（意見・質問）委員

地方創生総合戦略の基本目標4に記載されている「高齢者が生きがいを持ち、いきいきと暮らす環境づくり」にはいきいきサロン、睦大学、老人クラブ等が含まれると思いますが、コロナ禍以降、参加者が減少し、一部の組織では廃止や活動休止に至っております。

私自身、滝沢市健康づくり推進協議会の委員として会議に出席しており、今日の出席者の何人かも委員となっています。この協議会では母子保健計画や地域保健計画、各種検診や子育てに関することが主な内容となっています。ただ会議資料の中にはいきいきサロンや睦大学に関する記載もあります。しかし、滝沢市側の出席メンバーは健康こども部だけで福祉部の高齢者福祉課や地域福祉課は出席しておりません。

これでは健康づくり推進協議会の中でいきいきサロンや睦大学について発言をしても、担当課に伝えますといったことになってしまいます。

滝沢市民の健康づくりは健康こども部だけでなく、福祉部も一体となって取り組むべきではないでしょうか。

第2次総合計画には「こどもまんなか滝沢」が掲げられていますが、高齢化社会が進む滝沢市においては、前述の高齢者が生きがいを持ち、いきいきと暮らす環境づくりも重要だと思いますので、具体的な施策を講じて取り組んで頂くようお願いします。

また、地域の自治会でも行政との連携を図り、子供と高齢者が一緒に参加し、楽しめる事業や行事を計画し取り組んでいきたいと思っています。

（進行）会長

基本目標4に関わる御要望かなと思いますが、どなたかお答え願います。

（回答）市長

どうもありがとうございました。担当課の出席が足りないという御意見かとは思いますが、まず健康づくりの部分、そして福祉の部分については、それぞれを別個に考えているわけではございません。その点については御理解いただければと思います。

これからの地域づくりにおいては、子どもを巻き込んだ「いきいき滝沢」の取組を通じて、各世代の皆さまがどのように地域の中で暮らし、つながりを作っていくかが重要であると考えております。健康づくりを基盤とし、それを地域づくりにしっかりとつなげられるよう、今後も引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

（進行）会長

どうぞ他にありますでしょうか。

（意見・質問）委員

今の質問にも若干関係するかもしれませんが、あえて発言させていただきます。確かに、いろいろ目標を掲げ方向性を示す重要性は理解できますが、今の時点でそこに到達する、あるいはそちらの方向に近づいているという感覚がありません。逆に、後退しているのではないかという部分も見受けられます。この点については内部でもしっかりと検討していく必要があるのではないかと感じております。

それから、総合戦略の14ページに記載されている「安全で安心できるまちづくり」に関する政策についてです。この中には「災害に強いまちづくり」や「消防団の強化・充実」などが記載されています。また、「自主防災組織」についても言及されています。しかし、私はこれらの組織や活動が、拡大されるどころか、縮小されているのではないかという印象を受けています。その点についての見解をお伺いしたいと思います。

また、総合戦略全体についてですが、計画を作成し、それに基づいて取組を行うということは理解できますし、それはそれで良いと思います。ただ、例えば人口政策や若者に対する施策についても、これまでの滝沢市の状況を振り返る中で考える必要があると思います。

他の市町村、特に県北や沿岸地域では人口減少が進んでいますが、滝沢市はこれまで減少せず、むしろ増加してきました。その理由を考えると、盛岡市との地理的な関係や条件の良さが大きな要因だったのではないかと思います。

これを踏まえると、これからの人口減少を抑え、若者を定住させ、呼び込むためには、滝沢市に人々が住みたいと思える条件を整える必要があるのではないかと思います。

滝沢市がこれまで人口を増やしてきた要因を分析し、条件を整えれば若者や人口は増加し、減少を防ぐことができると思います。

具体的に言えば、若者が定住するためには、働く場が必要です。働く場がなければ、若者は滝沢市に住むことはありません。そのため、地域づくりを進める中で、「働く場」をどのように確保するかという点を最優先に考える必要があると思います。この考えを念頭に置き、地域づくりを進めることが重要だと感じています。

（進行）会長

3点御指摘いただきました。1点目は全体として計画そのものについては、これで良いと思うものの、市全体の取組が実際に進捗している実感が得られないということ。

2点目は「安全で安心できるまちづくり」の部分について、計画書にはこう書かれているものの、実際には弱体化しているのではないか、大丈夫なのかということ。

3点目は「若者を呼び込み、人口を減らさない」ということは重要であることに異論はないが、そのための決め手となる具体策が何なのかということです。特に若い人が働きたいと思える「働く場」を、もう少し具体的に示してほしいという御意見です。

以上について、答えられる部分があれば、どうぞ御回答をお願いいたします。

（回答）市長

まず、総合戦略に関しては関係各課と協力しながら、しっかりと検討しこのような形で作成しております。今後も「まち・ひと・しごと」の各分野について、市民の皆様に丁寧に説明してまいりたいと考えています。

次に、組織に関する状況ですが消防団員数について申し上げますと、久々に新規団員が増加し、ついに総数が300名を超え、大台に乗りました。このことは、一つの大きな節目であると考えております。新たに加入した団員の皆様には、今後消防団活動に積極的に携わっていただき、地域防災における重要な役割を担っていただきたいと考えています。

また、地域防災については、岩手山の噴火警戒レベルが上昇したことや、沿岸部で発生した林野火災などを踏まえ、何が必要かを改めて考え、住民の皆様にはしっかりと説明し取り組んでまいりたいと考えています。また新たな団員獲得に向けた活動についても積極的に進めてまいりたいと思います。

先日開催された防災避難所開設訓練では、これまでとは異なる形でのアプローチを試みました。具体的には、イベント形式で広く参加を呼びかけ、地域住民や親子連れの方々にも御参加いただきました。親子で参加された皆様には、家庭内で防災について話し合う良い機会となったのではないかと考えております。こうした新たな取組を通じて、地域防災における視点を広げていきたいと考えます。

さらに、自治会の防災リーダーの皆様とも連携を深めながら、地域防災の取組を一層強化してまいりたいと考えています。

次に、働く場の確保についてです。現在、中心拠点開発が進行中であり、市役所としても関連する手続きを進めております。民間開発の一部では、新たな雇用が生まれる可能性が見込まれております。また、今年度、岩手県立大学の向かいに位置する県有牧草地約14.9ヘクタールの取得や市街化区域への編入を目指し、県との交渉を進めております。

岩手県立大学の卒業生などから「岩手山に見える場所で働きたい」という声を受けており、その期待に応える形で計画を進めています。

さらに、これまでイノベーションセンターに誘致してきたIT関連企業28社を基盤としつつ、今後は製造業などIT企業と親和性の高い業種を誘致することで、滝沢市の新たな価値の創造を目指してまいります。この取組を滝沢市の「第2章」と位置付け、働く場の拡充と新たな雇用の創出を図ってまいりたいと考えています。

また、滝沢市は、岩手県立大学や盛岡大学、岩手大学、産業技術短期大学校などの高等教育機関と連携協定を結んでいることから、これらの大学や短大などとも連携し、働く場・働く人を確保してまいりたいとも考えています。こうした取組により、滝沢市が県北地域の振興を牽引できればと考えております。そのような視点からも全力で取り組んでまいります。

（進行）会長

はい、ありがとうございました。具体的な展望もいくつかお話いただきましたがよろし

いですか。

（意見・質問）委員

どうもありがとうございます。私は滝沢市について、やはり「環境が良い」という点が強みだと考えています。これまでの人口動態を見ても、多くの人が滝沢に移り住んでいることがわかります。この事実をしっかりと基盤に据えながら、さらに地域づくりを進めていくことが重要ではないかと感じています。

滝沢市は盛岡市に近く、公共交通の便が良いという地理的な利点があります。一方で、盛岡市はやや住みにくい部分もあるため、滝沢市はその距離感や条件の面で非常に生活しやすい場所だと思っています。ただし、「職場が十分にあるか」という点が課題だとも感じており、この点は若い世代にも共通する問題だと思われるので、ぜひ市として取り組んでいただきたいと願っています。

また、自主防災に関しては市長がおっしゃった内容はその通りだと思いますが、一層の取組をお願いしたいと考えています。例えば、滝沢市で消防演習を実施する際には、他市町村から多くの関係者が訪れます。その中で、各市町村から消防協力隊の方々が参加することが一般的ですが、滝沢市には現時点で消防協力隊が存在しない状況です。

かつて滝沢市では、消防分団と協力隊と一緒に活動し、地域や家庭を基盤とした防災活動を行ってきた経緯があります。大規模な災害が発生した場合には炊き出しが必要になることもあります。そのような場合でも協力隊がいれば迅速かつ効率的な対応が可能だと考えます。

そのため、消防団の人員についても考えなければなりません。先ほど300人の大台に乗ったという話がありましたが300人では滝沢市の規模に対して十分ではないのではないかと思いますので、増員をする手立てを検討するべきではないでしょうか。

さらに、消防協力隊のような自主防災組織の再検討も必要だと思います。これまでの取組を反省しつつ、新たな方策を考えるべきではないかと思います。この件について、もし御意見や答えがあればお聞かせいただきたいと思います。特に回答がなければ、それでも構いません。

（進行）会長

いかがでしょうか。

（回答）市長

まず、消防団員の数についてですが、先ほどお話したとおり、久しぶりに団員数が300人を超えました。これまで280人程度で推移していた中で、一気に増加したことは、消防関係者の皆様の努力の成果であると感じております。

また、各消防訓練においては、炊き出し訓練をはじめとする取組が行われていますので、女性消防団員の確保にも注力していきたいと考えています。そのためには、自治会の防災組織や防災部との連携が不可欠だと思っています。今後もこれらの連携体制をしっかりと

りと維持しながら、手を抜かずに防災に取り組んでまいりたいと考えています。

また、これまでの活動については反省点もありますが、何とか状況を改善したいという思いで新たな取組を進めており、具体的には新たな防災協定を結ぶ予定の団体もございまずので、今後の進捗について注視いただければ幸いです。

（進行）会長

はい、よろしいですか。どうぞ他の委員の方もなにかありますでしょうか。

（意見・質問）委員

先ほどのお話に関連する内容として、私の経験からお話させていただきます。

知り合いの御家族の中で、25歳くらいの消防団員がいらっしゃいました。その方は大変努力されていて、子どもが5人いる中で頑張っておられました。しかし、1か月ほど前に自死されたという話を聞きました。山田町の看護師で市役所に勤めている方が知り合いなので話を伺ったのですが、「滝沢市の『こどもまんなか』の取組がとても羨ましい」と話していました。その方は「もっと早く子どもを中心に考える取組を進めていれば、このようなことにならなかったのではないか」との声を漏らしていました。

滝沢市では、そのようなことが起こらないように、「こどもまんなか」の取組を進めてもらえればと思っています。

また、自主防災の話が出ましたが、私が滝沢市に来た頃は消防協力隊の一員として活動していました。その後、時代の流れに合わせて消防協力隊が自主防火クラブに変わり、私はその初代会長を務めました。その際、「時代に合わない形でなく、地域の自主防災の中で活躍できるよう頑張らしましょう」と呼びかけました。岩手山の噴火訓練にも参加し、炊き出しも行いました。こうした経験が今の消防団活動にもつながっていると感じています。

現在、自治会を回りながら防災組織の話をしていることを伺っています。地域でも女性の方々にもっと積極的に関わってもらい、滝沢市の活動を支えていきたいと思っていますが、私たち婦人会も後継者育成に苦勞しています。それでも近隣の若い世代を引っ張り、次の世代につないでいくことが必要だと感じています。

今回、知人の方が亡くなられたという話を聞いて、改めて「こどもまんなか」の取組や地域での見守りが重要だと思いました。それから自主防災もちろん大切ですが、地域全体で子どもたちを支え、見守る体制を築くことが必要だとも思っています。

（進行）会長

最後の部分の地域を巻き込んで子どもを見守ることが大切だという部分ですかね。どうぞお願いします。

（回答）市長

東日本大震災を契機として、私たちも「困っている方々」や「悩みを抱えている方々」

への支援について真剣に考える必要があると認識しております。特に、北東北3県では自殺率が高いという現状がありますので、この課題に対しては今後もしっかりと取り組んでまいりたいと考えています。

そのためには、まず「声を上げやすい環境」や「相談しやすい環境」を整備することが重要であると考えています。本人が相談をしなくても、周囲の人たちが気づき、声をかけられるような環境づくりを目指していきたいと思います。

現在、子育てに関する悩みを相談しやすい体制を整えるため、「こども家庭センター」を設置しました。これにより、ようやく子育てに関する相談体制が整備されつつあると感じています。この「こども家庭センター」を活用しつつ、関係する各課の連携を深め、いわゆる「重層的な支援体制」を構築し、一人一人に対して複数の課が情報共有を行いながら、連携して対応する仕組みを作り、今後も適切な対応を進めてまいります。

また、何か問題が発生した際に「声を上げやすい環境」を整備することが最優先であると考えていますので、この環境づくりにおいて不足している部分が何かという点については、引き続き研究を深め対応してまいりたいと考えています。

（進行）会長

よろしいですか。他にいかがでしょうか。

（意見・質問）委員

今回の総合戦略では、これまで若者が主体だったところに高齢者が組み込まれたという点について、大きく評価したいと思います。ただ、アンケート結果を見ると「老後が不安なく暮らせる」ということの重要度は高いものの、満足度が低いという結果が出ています。この結果から考えても、将来その不安を少しでも減らすために、丁寧な政策が求められているのではないかと感じています。

基本的な方向性として「高齢者が生きがいを持ち、いきいきと暮らす環境づくり」といった表現がされていますが、私が周りの高齢者の方々と話す中では、希望や生きがいといった大きなものよりも、もう少し身近なものが求められているように感じます。この文言からイメージされるのは、どこもかしこも健康で、家族がそばにいて、資産にも余裕がある、という一部の理想的な暮らし方のように思えます。

しかし、そのような大きな目標ではなく、尊厳を守りつつ、安心して穏やかに日々の小さな楽しみを見つけながら暮らす、といった方向性の方が現実的だと思いますし、多くの人に実感を持って受け入れてもらえるのではないかと思いますのでそのような文言や表現にしたほうがよろしいのではないかと思います。

それから、人口流出について特に若者の転出が問題視されていて、県などでも若い女性の社会減を抑えるための施策がホームページなどで紹介されていますが、親世代へのアプローチも重要だと感じています。私自身、息子が2人いますが、2人とも関東で仕事をしており、やりたい研究や仕事があるため滝沢市に戻ってくるのは難しいと思います。そうになると、私のような親世代の人たちは、今後に不安を感じ始めると思います。

例えば、雪かきが大変になってきたりすると、「自然は良いけれど、雪かきは負担だから子供のところに行こうかな」と考える人も出てくるでしょう。実際、私の周りでも「一人で暮らせなくなったら盛岡の老人ホームや高齢者用マンションに入りたい」という話をする人が増えています。こういった現実を踏まえると、若者だけでなく親世代の人口減少にも目を向けた施策が必要だと思います。

親世代の減少を防ぐためにも、こうした視点も是非持っていただきたいと思います。

（進行）会長

2点ですね。1つ目は基本的方向性の4番目の高齢者が生きがいを持ちいきいきと暮らす環境づくりのところで、希望や生きがいというちょっと大きな話になっているので、もう少しささやかな表現のほうがいいのではないかという趣旨だと思いますが、具体的にどういう表現がいいのではないかというのがありますか。

（意見・質問）委員

表現としては端的には希望・生きがいということにはなるのですが、安心して穏やかな生活を営むことができるか、何か日々楽しみを見つけながらと暮らすというような柔らかい表現がいいのではないかというふうに思います。

（進行）会長

はい、わかりました。もしも表現を工夫できればということと、それから親世代の方の問題ですね。どうぞ、2点お願いします。

（回答）市長

文言修正については検討させていただきますが、現在、滝沢市では商工会青年部の皆さんが「地元で仕事を見つけましょう」という趣旨のイベントを開催しています。このイベントには、多くの高齢者の方々、特に70代を超えた方々も参加されており、「まだまだ働きたい」という意欲を持って来られる方々もいらっしゃいます。

一方で、現在の若い世代においては、一つの会社で一生を終えるという選択肢が減少していく傾向があるとも言われています。

そのような中で、自分の人生を振り返りつつ、いきいきと働ける環境や地域との関わりを考えること、また、自身が育った環境を見直すことなど、多様な生き方がこれからの社会では一般的になっていくと考えられるのではないかと考えています。一つの会社に定年まで勤め続けるか、あるいは地元に戻るかといった選択肢について、それぞれの事情に応じた環境を整え、高齢者や若い世代を支える仕組みを作ることが重要であると感じています。

このようなことに対応するため、商工会の皆さんと連携し、様々な働き方や働き口の創出などを共に考えていきたいと考えています。

今後どのような暮らしや生き方が望ましいのかを地域の皆さんと話し合いながら、適切

な答えを見つけていくことが大切だと考えています。

また、近年では親子が同居する世帯が減少し、子が独立し、親と子が近くに住む形や、遠方から見守るといった生活スタイルが増えてきています。このような多様な生き方に対応するために、地域社会としてさまざまな環境を整備してまいりたいと考えています。

全ての課題にきめ細かく対応することは非常に困難ではありますが、地域の皆さんと協議を重ねながら、一つの方向性を模索していければと考えております。

（進行）会長

はい、事務局どうぞ。

（回答）事務局

ただいま市長より御回答を差し上げましたが、その補足として、事務局の考えをお伝えさせていただきます。資料の12ページから13ページにかけて記載されている基本目標については、やや高い目標や理想的な姿を掲げさせていただいております。

穏やかに自分らしく暮らすことが大事だという点についてはごもっともだと思いますので事務局としては、例えば施策2における具体的な取組内容などを踏まえつつ、基本目標の文言については現状のままとさせていただき、その上で、説明文の部分については柔らかい表現という方向で検討を進め、必要に応じて修正をさせていただきたいと考えております。

以上、よろしくお願いいたします。

（進行）会長

よろしいですか。それでは他にどうぞ。

（意見・質問）委員

今日は各世代・各地域・各業種の代表者が集まる場ということで、それぞれの分野で「こうしたい」、「こうしてほしい」という意見があると思いますが全てを実現することは難しくできることとできないことがあると思います。私個人としては、滝沢市という街の特性をしっかりと考慮した上で、計画を進めていただきたいと思います。

例えば、「町興し」や「村興し」という言葉がありますが、無理に何かを「興す」必要がないのであれば、あえて興さない方が良い場合もあると考えます。現状を受け入れつつ、滝沢市ならではの特性を生かすべきです。特に医療分野について申し上げますと、滝沢市の隣には盛岡市があり、大きな病院や救急医療、高次救急施設が充実しています。そのため、滝沢市で新たに市立病院を作るといった案が出たこともありました。そのようなことにこだわるより、盛岡市の医療資源を活用しつつ、滝沢市における医療のあり方を再考することが重要だと考えます。

市長がおっしゃる「子ども中心のまちづくり」という考え方には、私も賛成です。滝沢市は盛岡市や他地域で働き、滝沢市で子育てをするベッドタウン的な役割を持つ地域です。

ので、小児科医療の充実や子供を産みやすい体制の整備に力を注ぐべきではないでしょうか。

例えば、呼吸管理ができる産婦人科や小児科といった医療体制を整備し、他地域からも「滝沢市は子育てに適した場所」として選ばれるようにすることが考えられます。

また、力を入れるべき分野を明確にし、重点的に取り組むことが重要だと思います。全ての分野で満点を目指すことは現実的とは言えないと思います。むしろ、どこかに集中して投資し、成果を上げることの方が効率的で例えば、救急当番医については盛岡市にお願いする一方で、滝沢市内ではよりきめ細かい医療サービスを提供する、といった形が望ましいのではないのでしょうか。

最終的な目標として、滝沢市を「ここで生まれ育ち、ここで働きながら子育てをし、最終的にここで人生を全うできる」と思えるような街にすることが重要だと思います。

諦めるべきところは諦める、といった割り切った視点を持ちながら、広い視野でご判断いただければ幸いです。

（進行）会長

はい、ありがとうございます。一言で申し上げるとメリハリのある政策展開や現実的な政策展開を求めているということかと思います。医療に関してはかなり具体的な御提案もございましたが、どうぞ御回答お願いします。

（回答）市長

私自身も100点満点は難しいとは感じております。限られた予算の中で、どこに注力し、政策を進めていくかが重要であると考えております。

来年度の大きな目玉の1つとして、「5歳児健診」の実施が挙げられます。この健診を通じて、早期に不安のあるお子さんを見つけ出し、適切な対応を行うことで、子育てにおける不安を少しでも取り除いていきたいと考えています。

また、こうした取組を進めることで他の必要な政策が見えてくると思っています。そのため、焦らず取り組むことも重要だと考えております。まずは1つずつ取組を実施し、その結果を踏まえて、どのように対応していくべきかを検討してまいりたいと考えております。そうした際には、改めて先生に御相談させていただきたいと思っております。

また、予算が潤沢に増える状況であれば良いのですが、人口減少に伴い税収も減少すると思いますので税収を維持するための施策、あるいはお金を稼ぐための政策も検討していく必要があります。

今後はこうした点にも対応しつつ、長期的な方向性を捉えた政策を推進していきたいと考えております。

（進行）会長

はい、よろしいでしょうか。他にありますでしょうか。

（意見・質問）委員

私からは滝沢市の取組を支援し、応援する立場である広域振興局としてお話をさせていただきます。

今日は人口減少や移住・定住、雇用の場の確保について、各委員の皆様からも御意見をいただいているところですが、これらの課題は滝沢市だけでなく、県全体として取り組まなければならない重要な課題であり、非常に強く責任を感じております。

こうした課題が解決されることによって、今回の計画や構想の実現につながるものと考えており、広域振興局としても全力で支えていきたいと考えております。

令和7年度において、県ではこれまでの移住・定住に関する取組に加え、「ジェンダーギャップの解消」に力を入れていく方針です。ジェンダーギャップとは、男女間の格差を意味し、職場や家庭などさまざまな場面で表れる課題を指します。この格差を解消することが重要であると認識しております。

例えば、雇用の分野では男女ともに働きやすい環境づくりを推進する取組を進めています。具体的には、先進的に取り組んでいる企業の事例紹介や、合同就職説明会、インターシップの機会を創出することを通じて、地域の企業に多くの人材が就職し、地元で定住していただけるよう支援を行ってまいります。

滝沢市においては、今回の計画がいよいよスタートする段階に来ているわけですが、この計画が着実に実行されるよう、引き続き広域振興局としても取組を支援してまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（進行）会長

はい、ありがとうございました。県との連携について御発言をお願いします。

（回答）市長

先日、1月に行われた盛岡市での岩手県立大学および盛岡大学の卒業生やOB・OGの方々との交流会に広域振興局長さんにも御参加いただき、一緒に会を開催いたしました。今後も、このような取組を通じて、連携・協働の方向性を確認しながら進めていきたいと考えています。

また、ジェンダーに関する取組についてですが、これは子どもの頃から問題意識を持てるよう取組を進める必要があると認識しており、教育委員会でもしっかりと取り組んでいますし、不足している部分についても様々アプローチしていきたいと考えております。

さらに、先ほど5歳児健診の話をしていただきましたが、この取組が必要だと感じたきっかけの一つが、盛岡大学で実施されたリカレント教育の中で行われた「発達障害の子どもたち」に関する講演でした。この講演には多くの方々が参加され、講演後の感想には、非常に長文で熱心な感想が寄せられました。これを見て、5歳児健診を早期に実施し、子育てにおける不安に対応する必要性を改めて感じたところです。

今後は岩手県、県立大学、盛岡大学などと連携し、地域が持つ強みを生かしながら、市政をさらに推進してまいりたいと考えています。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

す。

（進行）会長

はい。ありがとうございました。それでは以上で議事1「次期地方創生総合戦略の策定について」を終了いたします。

次に議事2「令和6年度たきざわ幸福実感アンケートの結果について」事務局から説明をお願いします。

（説明）事務局

議事2「令和6年度たきざわ幸福実感アンケート」について御説明させていただきます。このアンケートは、市長挨拶にもありましたとおり平成15年度から毎年実施しているもので、市民の皆様が普段どのようなことを感じ、考えているかを知り、地域づくりや行政経営に生かすことを目的としています。

アンケート本体については事前に送付させていただきましたので、既にお手元にあるかと思いますが、全体としては104ページというボリュームの報告書となっております。

本来であれば1ページずつ説明差し上げたいところではございますが、本日は時間の都合上、概要版に基づいて特徴的な項目について御説明させていただきます。

1の調査概要でございますが、調査対象は滝沢市内に住所を有する18歳以上の男女で、性別、世代、地域を考慮し住民基本台帳から無作為抽出した標本数は3,200となっております。調査方法は無記名自記式で、提出は郵送またはインターネットで受け付けいたしました。

調査期間は令和6年の10月31日から11月30日の約1か月間で、有効回答数は1,037件、回答率は32.4%でした。これは令和5年度の936件、回答率29.3%と比較すると、3.1%増加した結果で、全ての世代で回答率が上昇しました。

しかし、中段のグラフのとおり若年層ほど回答率が低いという状況に変化はありませんでした。

3以降は変化のあった項目についてとなります。3の（1）重要度の度合いです。

重要度の度合いについては令和4年度調査と令和5年度調査の比較では上位項目の変動はありませんでしたが、令和5年度調査と令和6年度調査の比較では「市に犯罪がないこと」が2位に浮上しています。これは近年の国内治安の悪化を反映しているものと推察され、市民の防犯に関する意識が高まっていることが分かります。

（2）令和元年度より「はい」が大きく増えている設問です。この二つの設問は「はい」と答えた人の割合が明らかに高くなっております。

問2（45）「あなたは、ここ1年で滝沢市のホームページを見たことがありますか」に「はい」と答えた人の割合が高くなってきていることから、ホームページで情報収集する人が増えてきており、ホームページでの情報発信が今後さらに重要となると考えられます。

また、問2（36）「あなたは、滝沢市の道路の除雪はきちんと行われていると感じて

いますか」に「はい」と答えた人の割合が高くなってきていることから、市の除雪については様々な意見があるなかでも、その取組について一定程度評価されている傾向であると考えられます。

（3）令和元年度より「いいえ」が大きく増えている設問です。この二つの設問は「いいえ」と答えた人の割合が明らかに高くなっています。

問2（32）「あなたは、滝沢市は災害に強いまちだと感じていますか」に「いいえ」と答えた人の割合が高くなってきていることから、近年の自然災害の増加や岩手山の噴火警戒レベルが引き上げられたこと等が防災意識に影響を与えていることが考えられます。

問2（17）「あなたは、地域の役に立つ機会があると感じていますか」に「いいえ」と答えた人の割合が高くなってきていることから、コロナ禍で減少した市民同士の交流機会が元に戻らず、結果として地域の役に立つ機会が減少していることが考えられます。

以上が概要に関する説明となります。なお資料に一部記載漏れがありましたことからお詫びし、訂正いたします。訂正部分は1の（5）「有効回答数」の部分で、令和4年度の回答率の記載が漏れておりました。令和4年度の回答率は28.6%となっております。失礼いたしました。

（進行）会長

はい、ありがとうございました。それでは説明にありました通り、概要版のみならず事前配布された本体資料に関しても意見・質問のある委員の方は発言をお願いします。

（意見・質問）委員

アンケートについて、いくつか検討していただきたい点があります。盛岡市では、中学生を対象としたアンケートも実施しているようです。一方で、小学生や高校生については小さいお子さんであることや、学区が違っていたりすることがあるなどの理由で、アンケートを取ることが難しかったのではないかと推測しています。そのため、中学生については、授業の一環としてアンケートを実施したのではないかと思います。

なぜこのお話をしたかという、子どもの目線と大人の目線では考え方が異なる場合が多いように感じるからです。アンケートの101ページを見ますと、「子育てに関するあなたのお考えについてお聞きいたします」という設問があります。その回答はおそらくお子さんを持つ御両親からのものだと思いますが、これが本当に子どもの考えを反映しているのかどうか、疑問を感じます。子どもの視点が反映されていない可能性があるのではないのでしょうか。

そのため、もし可能であれば、中学生を対象としたアンケートも実施した方がよいのではないかと考えます。また、各年代別のアンケートについても検討が必要ではないのでしょうか。現行のアンケートは全年代を対象とした内容ですが、もう一步踏み込んだ形で、年代ごとに質問内容を変えたアンケートも検討されてはいかがでしょうか。例えば、18歳の回答と私のような67歳の回答では、大きなギャップがあるのではないのでしょうか。

また、高齢者向けのアンケートには、介護や生きがいに関する設問を設けるなど、質問

内容を年代別に分けることでより実態に即したアンケート結果を得られるのではないかと考えます。

（進行）会長

よろしいですか。中学生とか子供にもアンケートをとったらどうかという話と、もう一歩踏み込んだ設問で年代別にアンケートを取ったらどうかということですね。どうぞお願いします。

（回答）事務局

ただいま御提案いただきました「中学生など子どもたちにもアンケートを実施してはどうか」という件につきましては、確かに将来世代である子どもたちの意見を大切にすることは重要でございます。この点について、どのような方法が可能か検討させていただきたいと考えております。

また、子育てに関する部分につきましては、設問の中で、現に子育て中の方々のみを対象として回答をいただいた結果を本資料に示しております。さらに、今回のアンケート以外にも、例えば子育て課の「子ども・子育て支援事業計画」など、各分野の計画を策定する際には、対象世代の方々を対象としたアンケート調査を実施し、個別の計画に反映しているところです。

また、中学生や小中高生の意見につきましては、第二次総合計画を策定する際に、小学生、中学生、高校生、さらには大学生の皆さんとも意見交換を行い、滝沢市の今後のまちづくりについて、何が必要かを直接対面形式で伺う機会を設けております。

（回答）市長

小学生や中学生の意見については、回答率はおそらく100%に近くなるのではないでと思っておりますので、本当は聞いてみたいところでございます。そのような期待感を持ちながらも、この「たきざわ幸福実感アンケート」の結果は平成15年度から収集しているデータになりますので、ある程度重要なポイントに注目し、どうしても外せない項目については、引き続きしっかりとデータを収集していきたいと考えています。

なお、子どもたちの意見を聞く機会については、総合計画を決めるときに話を聞いて本当に楽しかったので少し考えさせていただければと思っております。

（意見・質問）委員

いろいろなやり方が考えられるかと思いますが、子どもが子どもたち特有の問題を抱えていることは間違いなくと思います。その他にも例えばジェンダーの問題など、さまざまな設問が考えられるのではないのでしょうか。地域から外に出ていく要因や、逆に地域に入ってくる要因についての設問なども考えられるのではないかと思います。これらについてぜひ御検討いただければと思います。よろしくお願いいたします

（進行）会長

はい。データの分析活用という点では継続性も大事だと思いますが、せっかく「こどもまんなか」を掲げているのであれば新しい形での試みも始められてもよろしいのかなと思いました。18歳以上を対象としたアンケートだと地元定着のカギを探すにはちょっと定期的に遅いのではないのでしょうか。そういう意味でも検討されるということですので、私も楽しみに待ちたいと思います。よろしいですね。どうぞ他にいかがでしょうか。

（意見・質問）委員

このアンケートについてですが、前に私自身ではなく家族宛てに送られてきました。その際、どのように答えていいかわからないと家族から相談されました。アンケートの単純集計結果を見ますと、「感じ方」の項目で「③どちらともいえない」に丸を付けた回答が多く見受けられました。この「どちらともいえない」という回答は、どう答えていいかわからないために選んだ方が多かったのではないかと推測しています。

また、「総合計画を知っていますか」という設問では、「知らない」と回答した方が80%以上という結果が出ており、非常にショックでした。私自身、審議会委員を務めているため「総合計画」という言葉について知っていますが、一般には認知が進んでいないのだなと改めて感じました。

こうしたことを踏まえると、総合計画についてもっと広報活動を進めていかないと、アンケートを実施しても正確な回答が得られないのではないかと思います。総合計画を作成した時には概要版を作成し広報を行ったようですが、それがまだ十分に浸透していないのが現状なのかと思います。計画策定から日が浅いこともあり仕方ない部分はあるかもしれませんが、総合計画の認知が進むことで、アンケートに対する考え方や見方も変わり、日常の市内の見え方も変わってくるのではないかと思います。そのため、今後はさらに総合計画のPRに力を入れていく必要があるのではないのでしょうか。

次に、先ほどの総合戦略との関連についてお話しします。総合戦略の中で、高齢者に関する項目について目標値が非常に消極的であると感じました。アンケート結果を反映させながら総合計画や総合戦略を考えるという方針でしたが、このアンケート結果から総合戦略に結びついていない部分もあるように思います。やはり、もう少し深掘りして分析を進める必要があるのではないのでしょうか。

具体的には、総合戦略の13ページの（2）の②「老後が不安なく暮らせると感じている人の割合」についてです。この項目では、令和5年度の基準値が16.2%で、令和13年度の目標値が20.2%とされています。つまり、8年間で4%の上昇を目指すという内容です。しかし、他の目標値がもっと高い割合を目指している中で、この数値だけが非常に控えめであるため、消極的だと感じました。

「2割の人が不安なく暮らせれば良い」という目標では不十分ではないのでしょうか。この目標値が低く設定されている背景には、現状の分析が十分に行われていないこともあるのではないかと思います。現状をしっかりと分析し、目標値をもう少し高く設定できるようにしていただければと思います。

（進行）会長

はい、ありがとうございました。総合計画の認知度は以前から課題となっていることで、その点についてどう考えているかということ。

それから「老後が不安なく暮らせると感じている人の割合」の目標値が20.2%というのは低すぎるのではということとあわせて回答をお願いします。

（回答）市長

総合計画に関しましては、計画を策定する際に御意見を伺った方々に対し、そのお答えとして丁寧に説明を行うよう、これまでも努めてまいりました。地域別懇談会や「市長と話そう」といった場などを活用し、さまざまな機会を通じて説明を行ってきたところです。

また、先日はタウンミーティングという新たな試みを開催し、これまでとは異なる方法で市民の皆さまと意見交換を行いました。その際、総合計画に関する内容についてもお話ししましたが、おそらく初めて耳にする言葉や内容も多かったのではないかと感じております。

今後は、これまでの取組の見直しや新しい取組方法を検討し、市民の皆さまにとってより身近で親しみやすい市となるよう努めてまいります。あわせて、この総合計画についても、引き続き丁寧に説明を行い、市民の皆さまに関心を持っていただけるよう努力していきたいと考えております。

（回答）事務局

私から目標数値について説明させていただきます。御指摘の通り、一見すると数値が低く、この数値の設定の背景に疑問を持たれるかもしれません。しかし、これらの数値は基本的に総合計画から引用されています。具体的には、総合計画前期基本計画の地域全体計画における福祉部門の目標である「老後が不安なく暮らせると感じている人の割合」の基準値が16.2%で、これを4年間で2%上げて令和9年度には18.2%にするという目標を掲げています。

総合計画の前期基本計画は4年間の計画ですが、総合戦略は8年後までの長期計画となっています。そのため、総合計画前期基本計画での4年間で「老後が不安なく暮らせると感じている人の割合」を2%上昇させる目標にあわせて、総合戦略では8年間で合計4%伸ばすことを目標としています。

ただ、福祉部門の総合計画前期基本計画における目標値設定については、内部での議論もあったところでございます。高齢化社会が進む中で、現状地を維持するだけでも困難だとの意見も担当部門からはありました。しかし、市として総合計画を策定する上で、良い方向に確実に進んでいることを示す目標値は必要と考えたところでございます。

このような様々な意見を踏まえ、福祉部門の目標値として3%以上上昇しているという将来的に確実に良い方向に進んでいることを示す数値を目標とすることとしました。

数値としては少なく見えるかもしれませんが、さまざまな取組を通じて市民の感じ方が確実に良い方向に変わることを目指してまいりたいと考えております。

（進行）会長

いかがでしょうか。

（意見・質問）委員

内容的に先ほどの議事1に少し戻ってしまいましたが、総合計画と総合戦略の関わりについて、御説明をいただきました。総合戦略は、総合計画に含まれるものだというお話だと受止めました。具体的には、総合計画の中から総合戦略に関わる要素を体系的に導き出し、それに基づいて戦略を策定したということだと思います。そのため、数値についても総合計画で示されたものをそのまま使用するという考え方だと理解しました。

しかし総合計画から総合戦略を改めて体系化する際、それで必要十分であるとするのが良いことなのか、若しくは総合戦略として新たに作成する以上、重点的に取り組むべき部分に関しては、総合計画で示された数値も見直す必要があるのではないかなど考える必要があるのではないかと思います。

こうした視点を考慮しないまま、「総合戦略は総合計画に含まれるものだから、その計画の進行状況を確認すれば十分だ」と済ませてしまうのは、何かもったいないように感じました。

（進行）会長

はい、どうぞ御回答お願いします。

（回答）事務局

まず、総合計画と総合戦略の関係性について御説明いたします。総合計画については、前期計画と後期計画の二つに分かれており、それぞれ4年間の計画となっています。前期計画は令和9年度までの期間を対象としております。後期計画の策定に向けましては、令和9年度までの4年間の推移を見ながら、指標などを全て見直した上で、後期4年間の計画を作成する予定です。

また、これに合わせて総合戦略の目標値についても見直しを行い、改訂版を策定する計画です。この改訂版においては、総合戦略の目標値に見直しや、必要に応じた修正を加える予定としております。このように目標値の管理や設定については、適宜見直しを行いながら、柔軟に対応していきたいと考えております。

（進行）会長

見直しの機会はあるということですね。「老後が不安なく暮らせる」と感じている人が全体の2割とするという目標は、低すぎるのではないかなという強い印象を持つ方が多いのではないかと思います。

より高い目標に到達することを目指し、しっかりとした政策を講じ、必要に応じて目標値は変更するということだと思いたしますがよろしいでしょうか。他に意見はございますか。

（意見・質問）委員

私の家族にも今年このアンケートが当たったのですが、回答はやはり難しいなと感じたところです。

先ほど話があった子育てに関する設問についてですが、この設問は、以前、子育てをしていない方々にも回答を求めた結果、数値が大きく異なっていたと記憶しております。そのため、現在は「子育てをしている方のみ回答してください」という形式に変更され、以前よりも正確な数値が得られるようになったと記憶しております。

「あなたは子供の悩みを相談できる相手がいると感じていますか」という設問についてですが、これを親が回答しても正確な結果にはならないのではないかと思います。

例えば、子供に直接「悩みを相談できる相手がいるか」、「夢中になって取り組めることがあるか」といった質問をし、その回答を親が記入する、といったやり方が良いのではないかと思います。

このようにすることで、アンケートをきっかけとして家庭内で会話が生まれることも期待できます。実際、我が家でもアンケートを通して会話が生まれました。子供に「相談できる相手がいるのか」と尋ねるだけでも様々なことがわかり、家庭内の関係が良い方向に進むのではないかと感じております。ぜひ、このような方法を検討していただければと思います。

また、学校では多くのアンケートを実施しています。例えば、「早寝早起きの状況」や「朝食をとっているかどうか」などの調査などを行っています。また、「いじめ」に関する調査も毎月学校で実施されており、子供たちは頻繁にアンケートに回答している状況です。

学校におけるアンケートの回答率はまさに「100%」です。一方、市民アンケートの回答率は「33%程度」と伺っています。このため、学校で実施されるアンケートは非常に正確な数値が得られると思います。学校では「学校は楽しいか」というような調査も行われていますので、市がより多くの実態を把握したい場合には、これら学校で実施されたアンケートを活用する方法もあるのではないかと思います。新たにアンケートを実施するのではなく、既存の調査を工夫して活用することで、効率的に実態把握ができるのではないかと私は考えております。

（進行）会長

子供の意見を聞くことについて、非常に具体的な提案がございましたので、回答をお願いいたします。

（回答）副市長

御意見をいただき、ありがとうございます。おっしゃるとおり、子ども・子育て計画に

関しては、子どもたち自身の声を直接聞いて記入してくださいといった形でアンケート調査や意向調査を行っている事例もございます。このような調査方法を今後加えることが可能かどうか、検討してまいりたいと考えております。

また、アンケートについてですが、これは平成15年から実施しております。しかし、設問が多い、難しい、時間がかかるといった率直な御意見をこれまでもいただいております。その一方で、滝沢市全体の傾向を把握するための定点観測としては非常に有効なアンケートでもあります。ただし、今年度も同様の御意見を多くいただいているため、この審議会の前に市長を含めて検討を行いました。

具体的には、回答していただく内容について、必要な部分は引き続き設問として残しつつ、一部を簡素化できないか等を含めて今後の改善を検討する必要があると認識しております。

そのような取組を進めつつ、引き続き幅広い世代の皆さまから御意見をいただきながら、政策・施策を推進することが重要であると考えております。貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございます。

（進行）会長

よろしいですかね。他にいかがでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございました。

それでは以上で議事2「令和6年度たきざわ幸福実感アンケートの結果について」を終了いたします。

それでは本日予定されておりました議事が全て終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

（進行）事務局

丸山会長、議事進行大変ありがとうございました。

ただいまの審議の中でいただきました、総合戦略の文言修正の御意見につきましては、こちらの方で修正案を作成いたしまして、最終的な判断は丸山会長に御一任いただき、それをもって成案とさせていただくということですのでよろしいでしょうか。

～ 委員からの異議なし ～

（進行）事務局

はい、ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。

成案となりましたら、委員の皆様方にも速やかに送付させていただきたいと思っておりますのでその際に御確認いただければと思います。

最後にその他ということでございますが、委員の皆様の方から何か御意見等あればお聞きしたいと思います。何かございますか。

無いようですので事務局から1点御連絡をさせていただきたいと思っております。

令和6年度第3回滝沢市総合計画審議会 会議録

令和7年度の総合計画審議会の開催予定についてです。令和7年度につきましては、総合計画審議会の開催は全部で2回予定しております。

令和7年6月に第1回といたしまして「令和7年度市長方針および政策方針について」を議題として審議いただきたいと思います。

また、令和7年の11月の第2回では、「令和6年度の市長方針および各政策方針の評価について」と「令和6年度滝沢地域社会報告書について」を議事として予定しております。

詳細の日程が固まり次第、委員の皆様には御案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それではこれもちまして、令和6年度第3回滝沢市総合計画審議会を閉じさせていただきます。

長時間にわたって御審議いただき、ありがとうございました。